家間
應文
庫
三十九編

万應仕
亭賀
歌川京
畫図

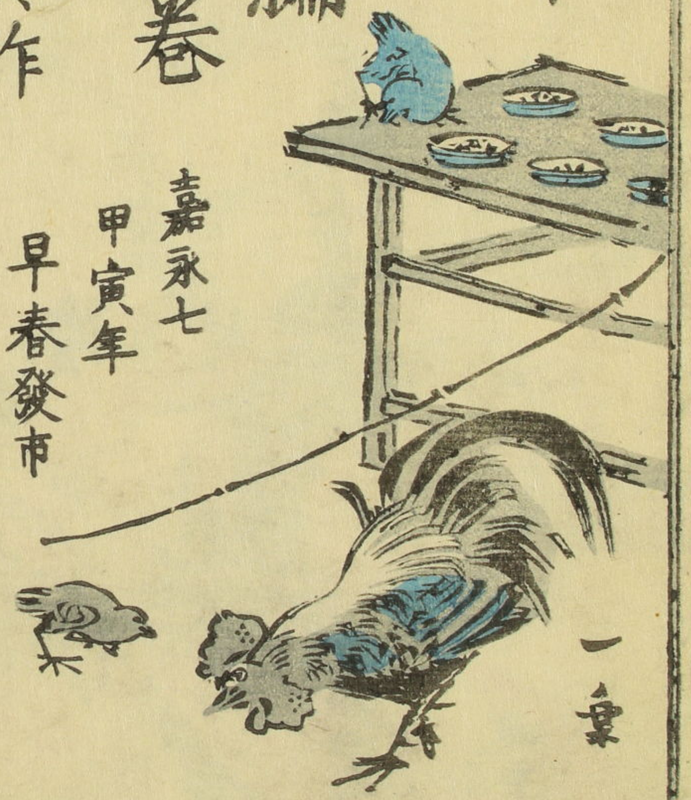
へ13
3836
12

万亭應賀作
歌川國貞画
上

門へ13
號3836
卷12

倭文庫 二拾九編 上之巻

万亭應賀作
歌川國貞画



嘉永七甲寅年
早春發市
江戸人形町通
上州屋重藏板

一集

一

釋迦八相倭文庫二拾九編之叙

此上冊は前編の讀續き目蓮の従弟る摩偈國の伽陵長者兄ゞ神通の不可思議ゆく大欲心と翻改ーて五口酒林と紙ゆ壊て竹園精舎と建立ーて如来へ法施ゆ献せーられ扨トの巻ゝ女来の御子ゆ四維眼羅のある人皆知ども善星童子の在ことを知者の少ければ此善星の来由ゆとゞ如来前世ゆ阿祇陀長者の麥と稠ー報とりて五百世驢ゆ生まーて説及び憍林九彼提栗を盗ミ牛の報をうけるゆ阿那律富樓那の功を混トて聊五戒の嚴重るを女童子衆ゆおゝーなる而已

嘉永七甲寅年
孟春吉旦發行

万亭應賀誌

摩偈國の住人
目蓮の従弟迦
陵長者如来へ
精舎を奉る
是を竹園精
舎と号く

大檀那伽陵夫婦

釈迦如来

舎利弗

目蓮

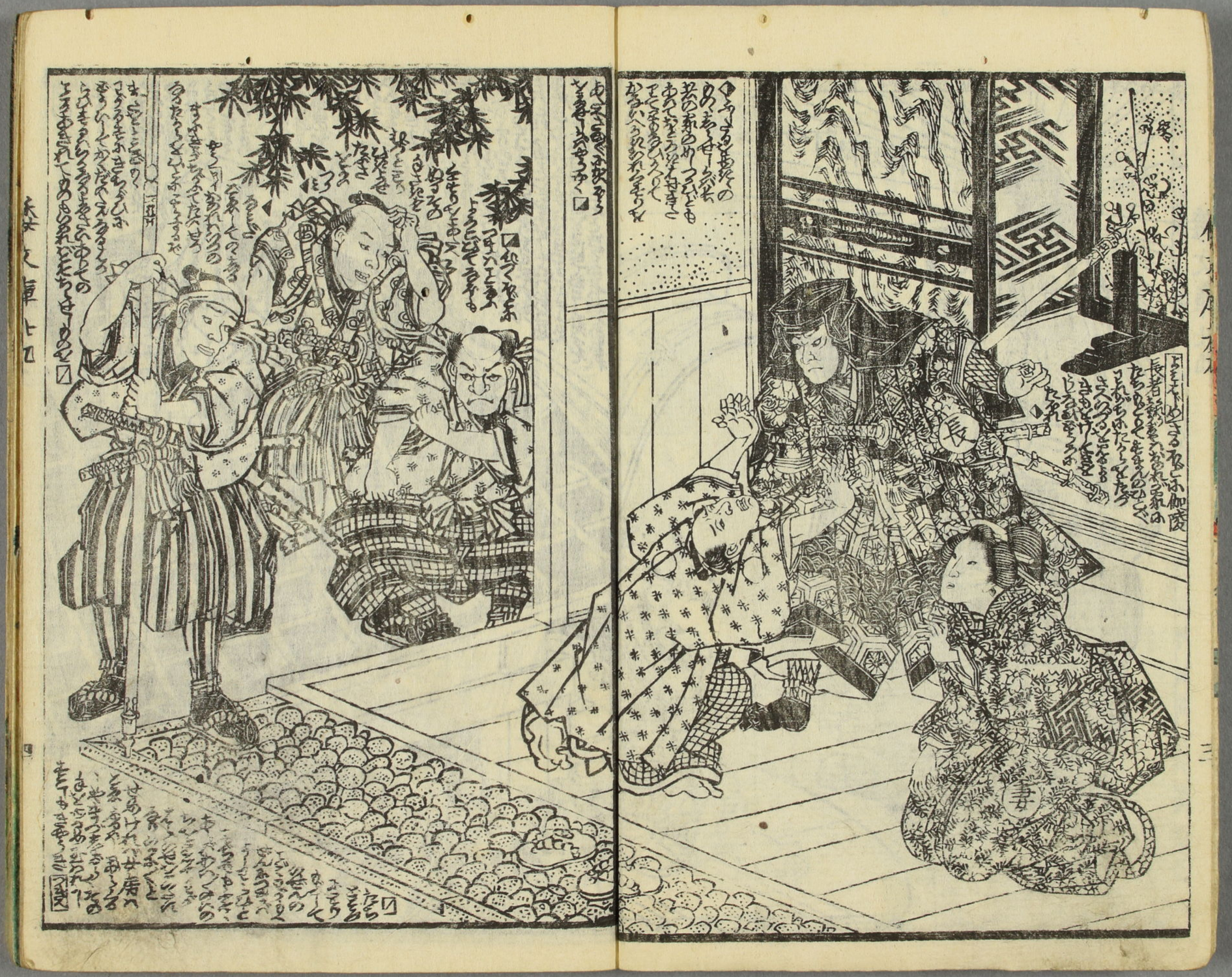
悉達太子
前世の
阿私陀仙人
婆羅門の
長者の麥を盜
五百世の間
鹽の報
得甘時
の業果
今世
童子
羅睺羅
持来

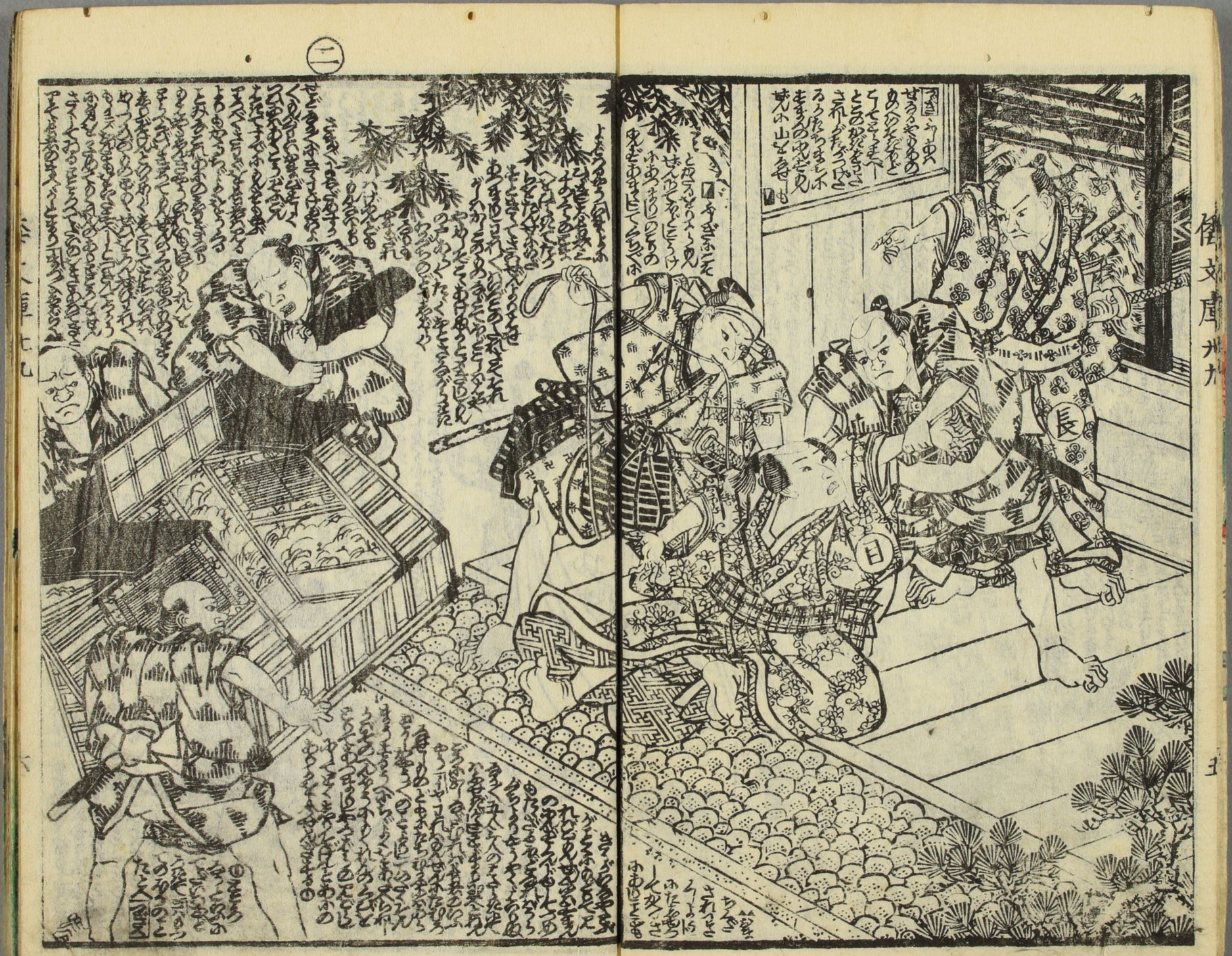
十六大弟子の一人
説法第一の
富留那

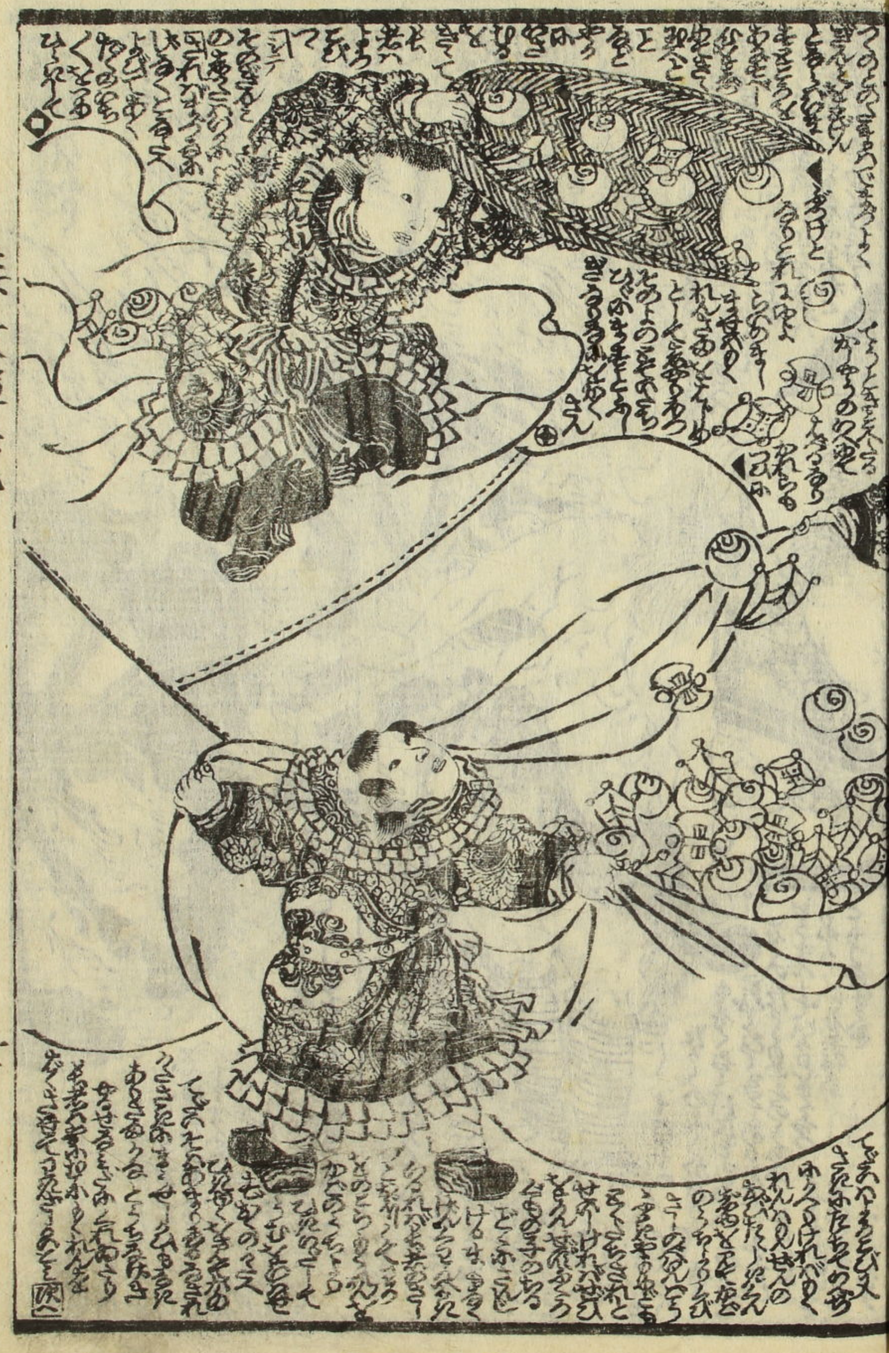
悉達太子の
后妃鹿野女王
夢を孕て男子と産
れ善星童子と

十六大弟子の一個
天眼第一
阿那律

善星
童子




二
長
日



應賀作　國貞画

嘉永七甲寅春新版目録

倭文庫　九七編三十編迄　万亭應賀作
当年出板仕い　一陽齋豊國画

赤松譚　九編　如渊外史作
十編　一圓齋國麿画

重箱井菱染別小紋　三編　為永春水作
四編　一陽齋豊國画

茶番案文　万亭應賀作
一陽齋豊國画

大寶御江戸圖　奉書　極上彩色摺
六枚半續　明細入改正下い

重絵さうし本類　人形町
版元　上州屋重藏

倭文庫拾編

嘉永七年
甲寅新彫

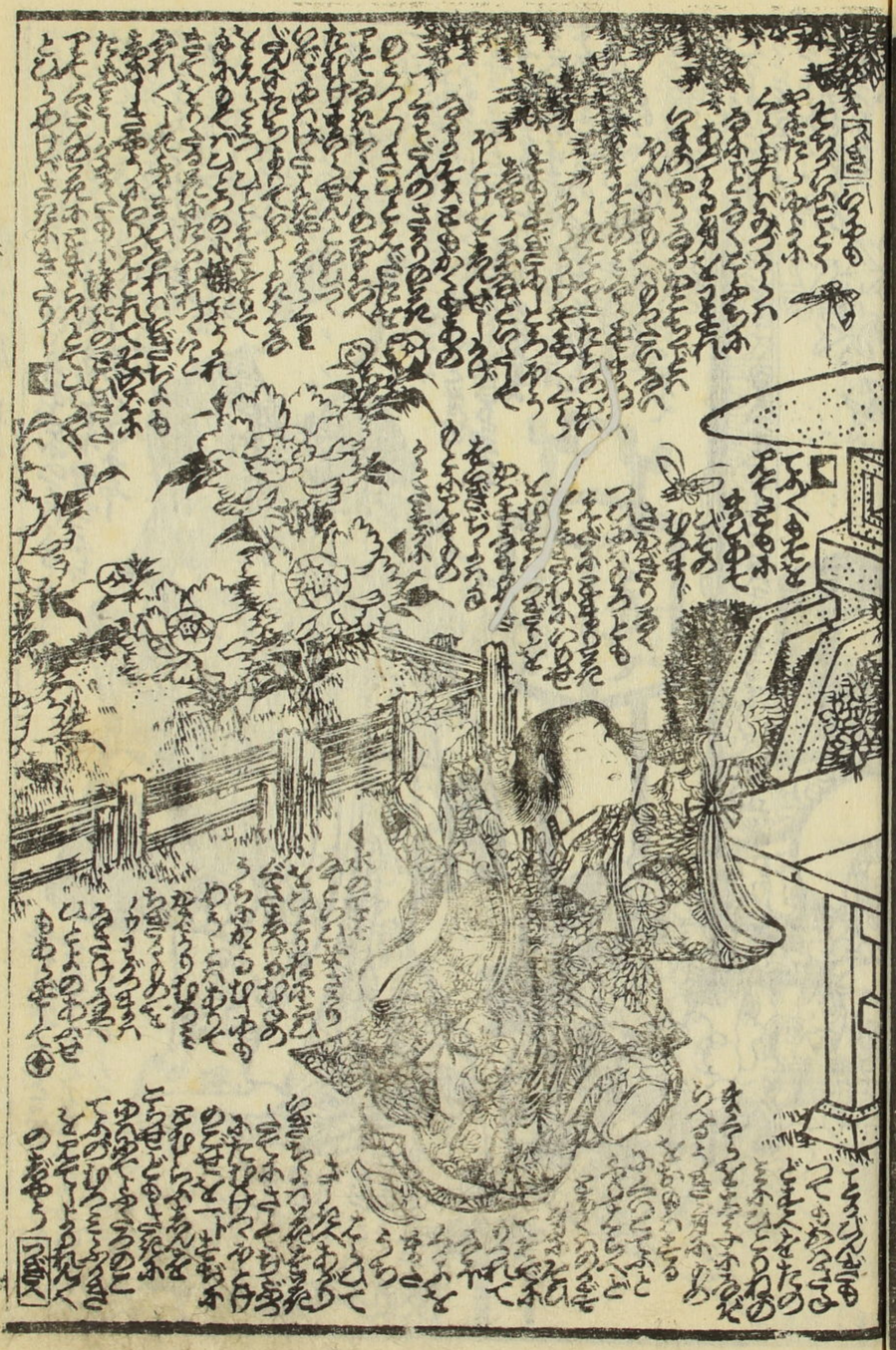
弁慶曲乱図

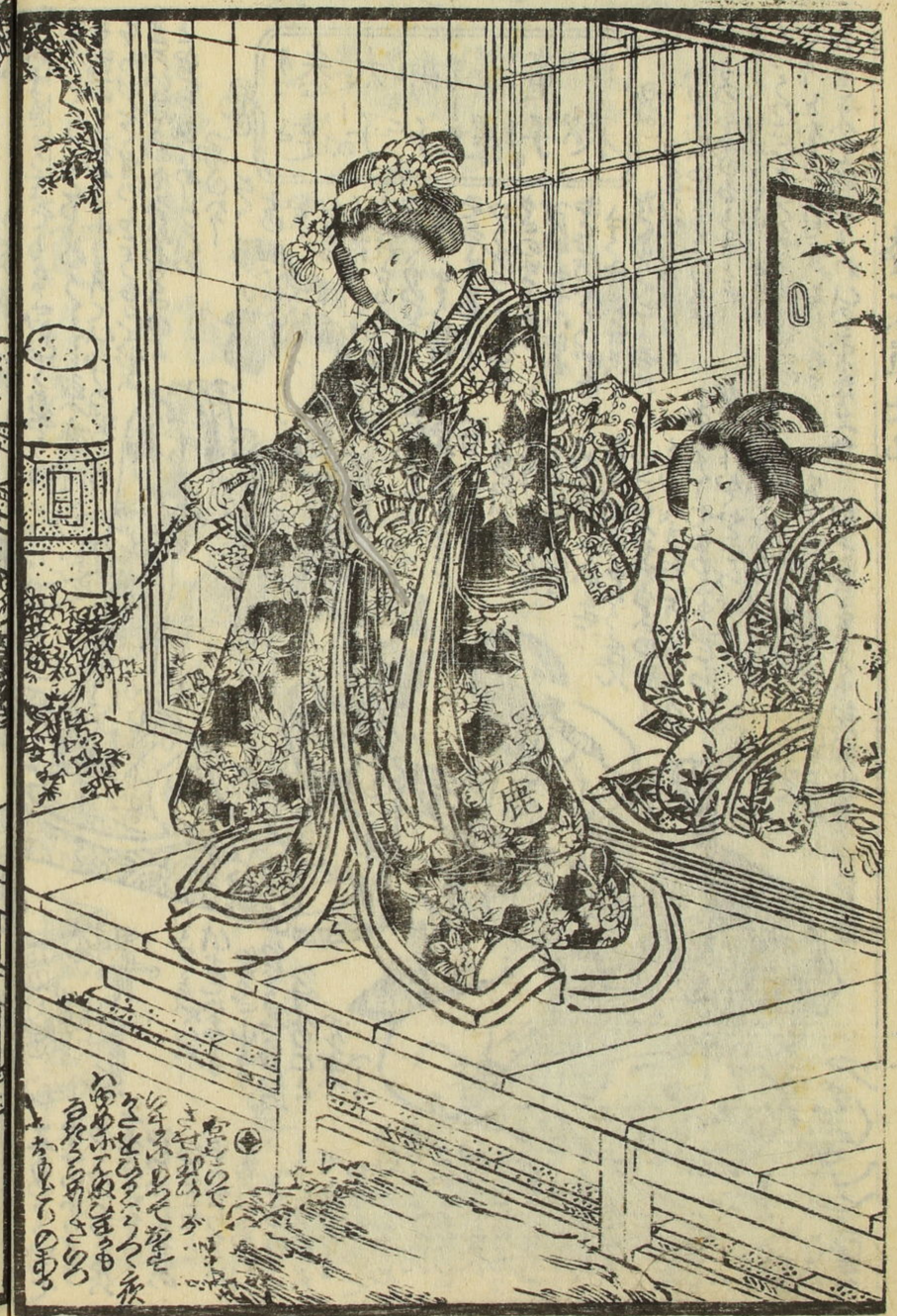
錦重堂版

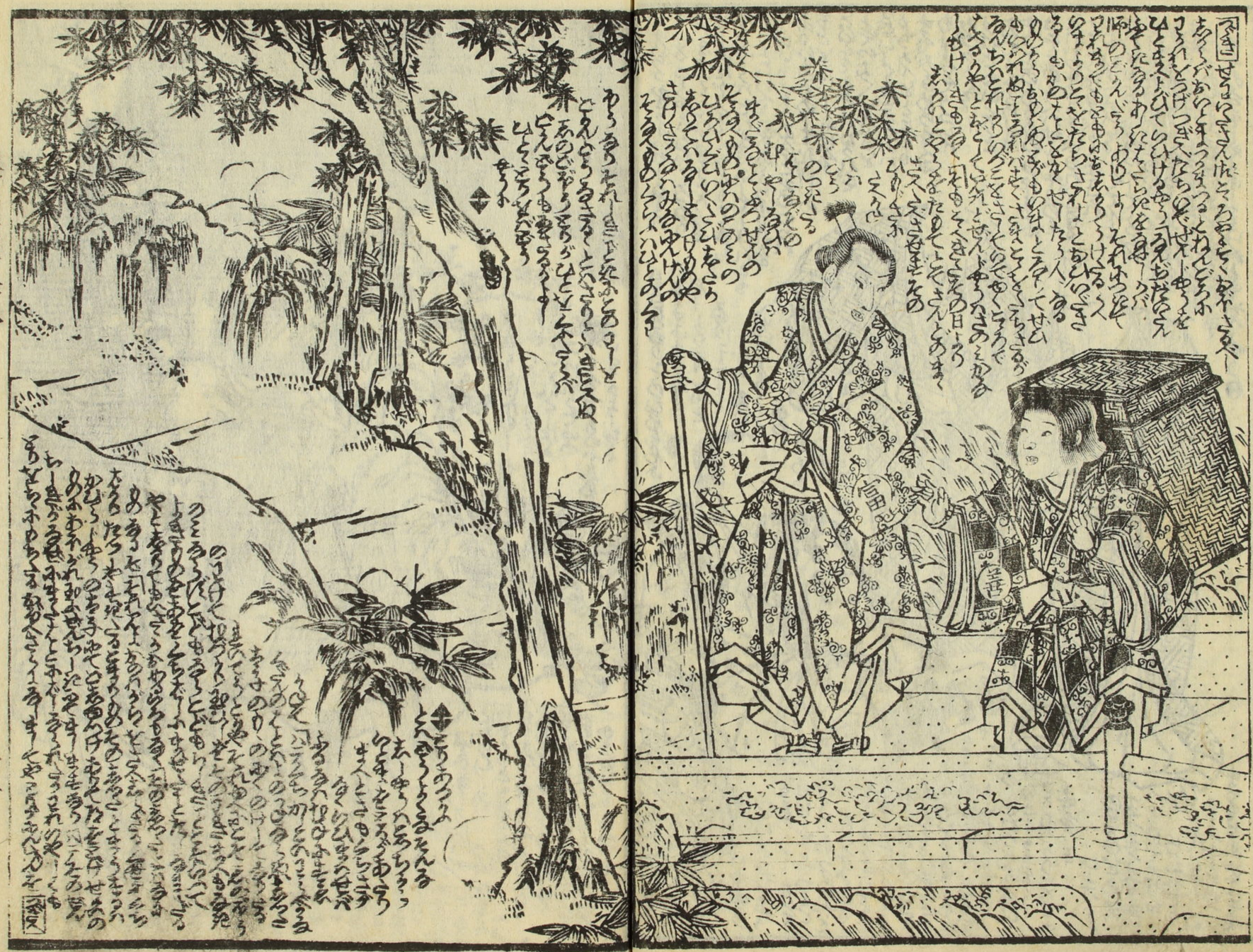
下

一泉
寅の春 彫刊
屋満女文庫
二編九ぺんかの巻
慶賀
國貞画
彫師 重梓

三
悉達の太子
御子善星童子の由来
梅文庫九
十一




鹿



あ
善
富

歌川國貞画

善惡星付流へ分

万亭應賀作

嘉永七甲寅春新板目録

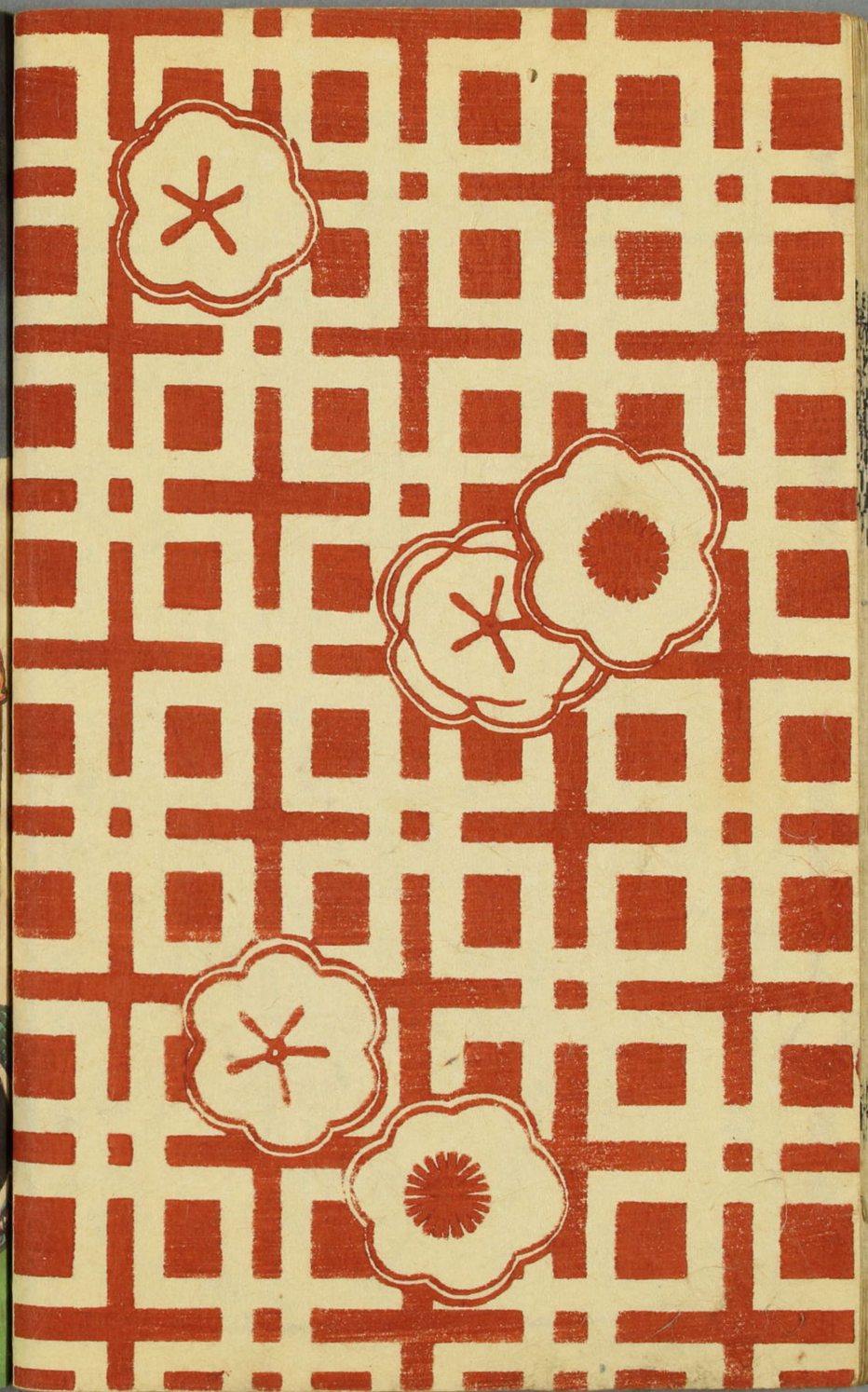
男女振分双六　万亭應賀作
奥奉公出世双六　同　陽齋豊國画
奥奉公出世繪合　極彩色　同　作
文字太夫直傳　常磐津はるゝ心の井　小本　初編二編三編　同　曲
同　はるゝ踊獨稽古　万亭　作
重繪艸紙本類　板元　人形町　上州屋重藏

倭文庫三拾編

仲題曲文同多

嘉永七年
甲寅新彫

上



釋迦八相倭文庫三拾編序

天世界の万物は大極一元の氣を種として陰陽の二ツ也陰陽合して物を生ずるに有情と非情の二ツ有情とは人間畜類鳥類魚虫非情は草木金石水火土と云へとも真心無念なるゆへ故に水と時に米と生じ変化の種より変化を生ずる有情は有念なるゆへ故に能変化するゆへ中にも人は情欲の厚きを以六道四生に変化して永く苦界を免れさるゆへ是を深く憐れみ如来他心通病命通の不可思議を顕し摩偈国王の夫人を度し邪師の欽婆羅を度し大乗の葉を値偶し舍衛國ゆへ説法せしめ給ふと録して此冊子の讀切とるべしと云ふ

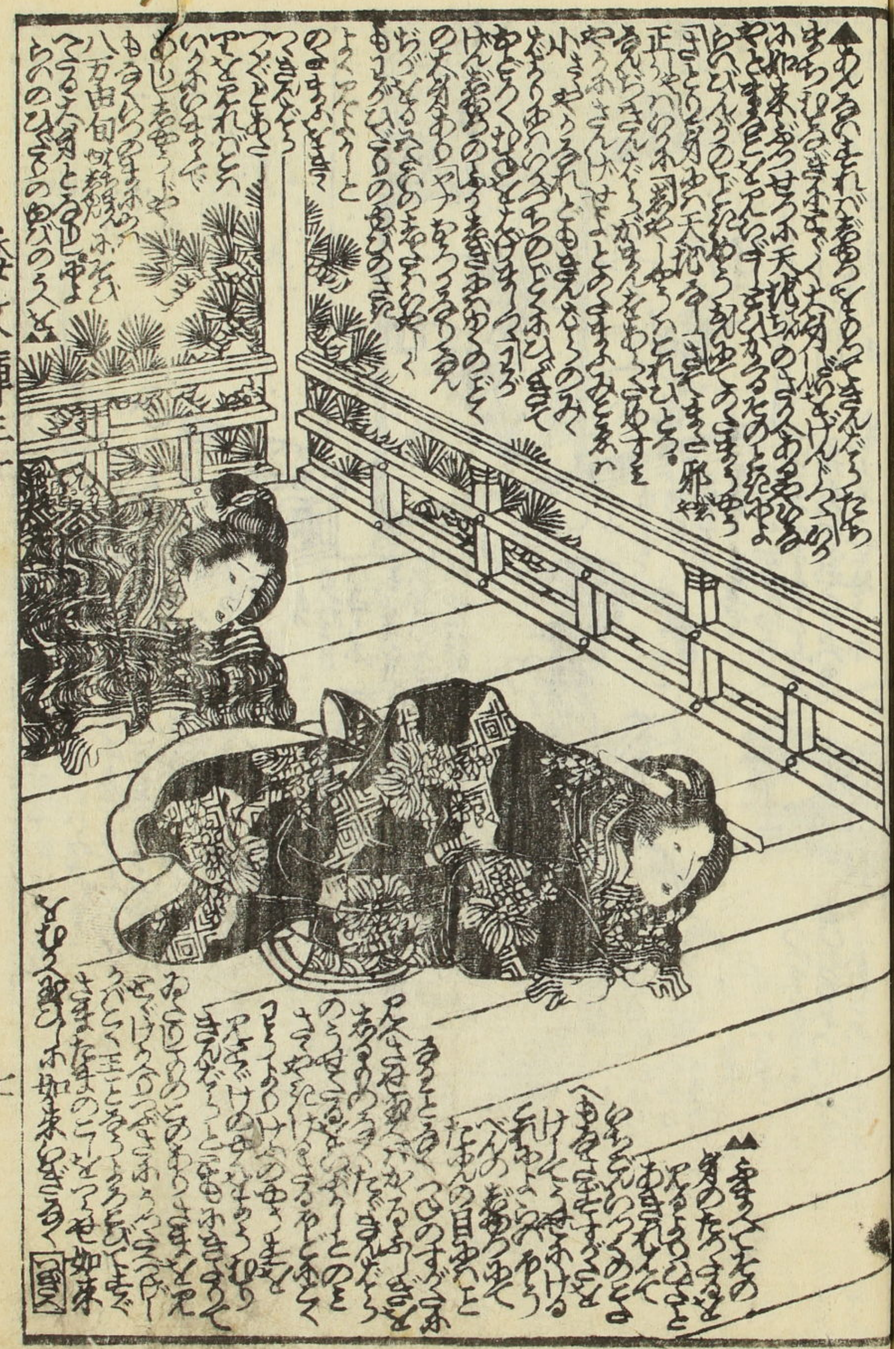
嘉永八乙卯年
孟陬吉辰發行

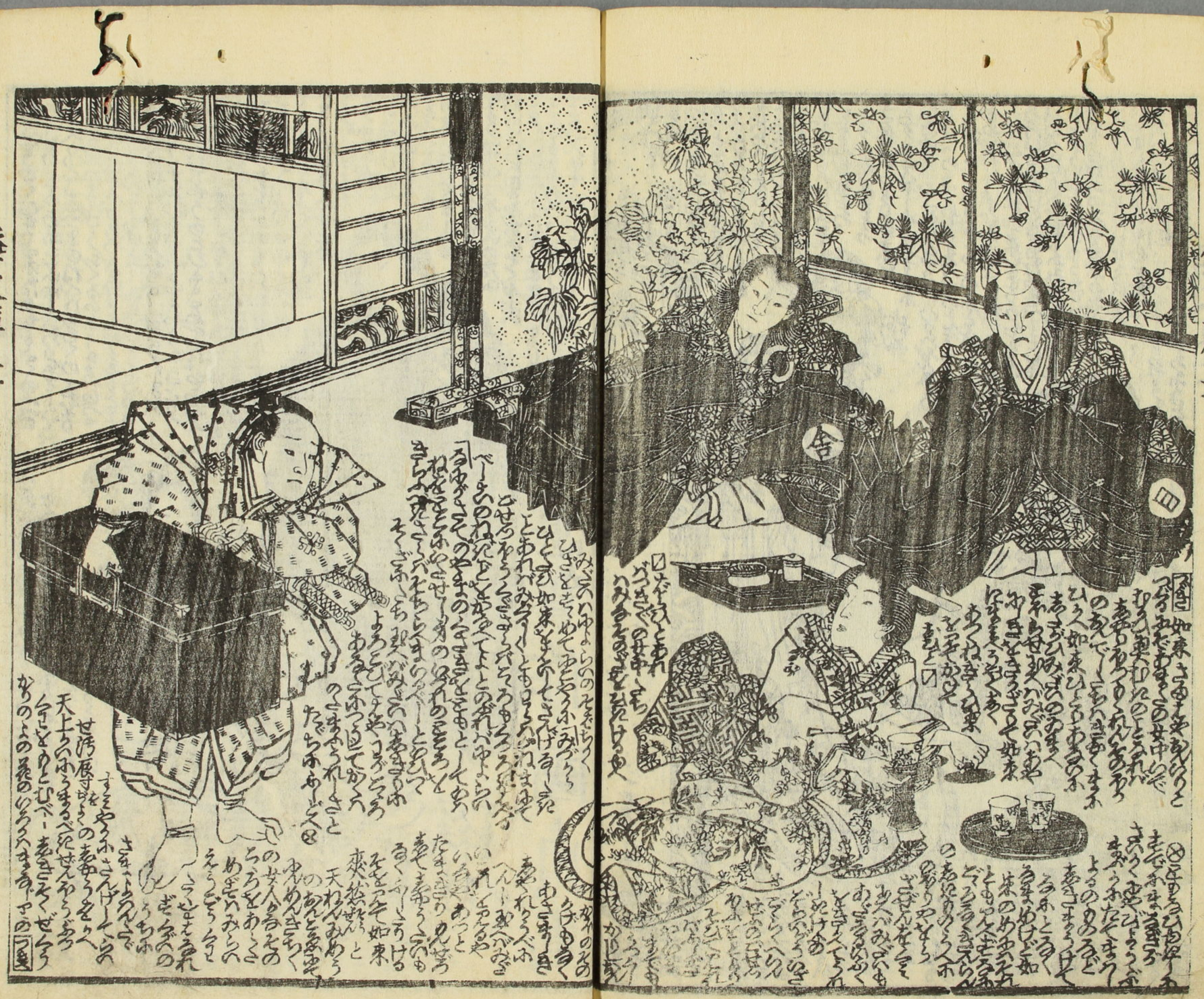
万亭應賀誌

釈迦如来
切利天
帝釈の法楽神
緊那羅王
七金山の峯
天女
舎利弗

帝釈天王
四天王
あらて釈迦如来の對
天楽を奏する
此時舎利弗
節とりて舞
阿法の司阿闍羅漏舎
欽婆羅の父十方山の
緊那羅王
琴を
弾る

如来の正法を滅し
舎利弗目蓮を亡さんと企
法楽神緊那羅
羅王の長子
邪師阿闍羅翅舎
欽婆羅
欽婆羅の
嬢摩那者





嘉永七甲寅春新版目録

倭文庫 九七編ヨリ三十編迄 万亭應賀作 当年出板仕ル 一陽齋豊國画

赤松譚 九編 如淵外史作 十編 一圓齋國麿画

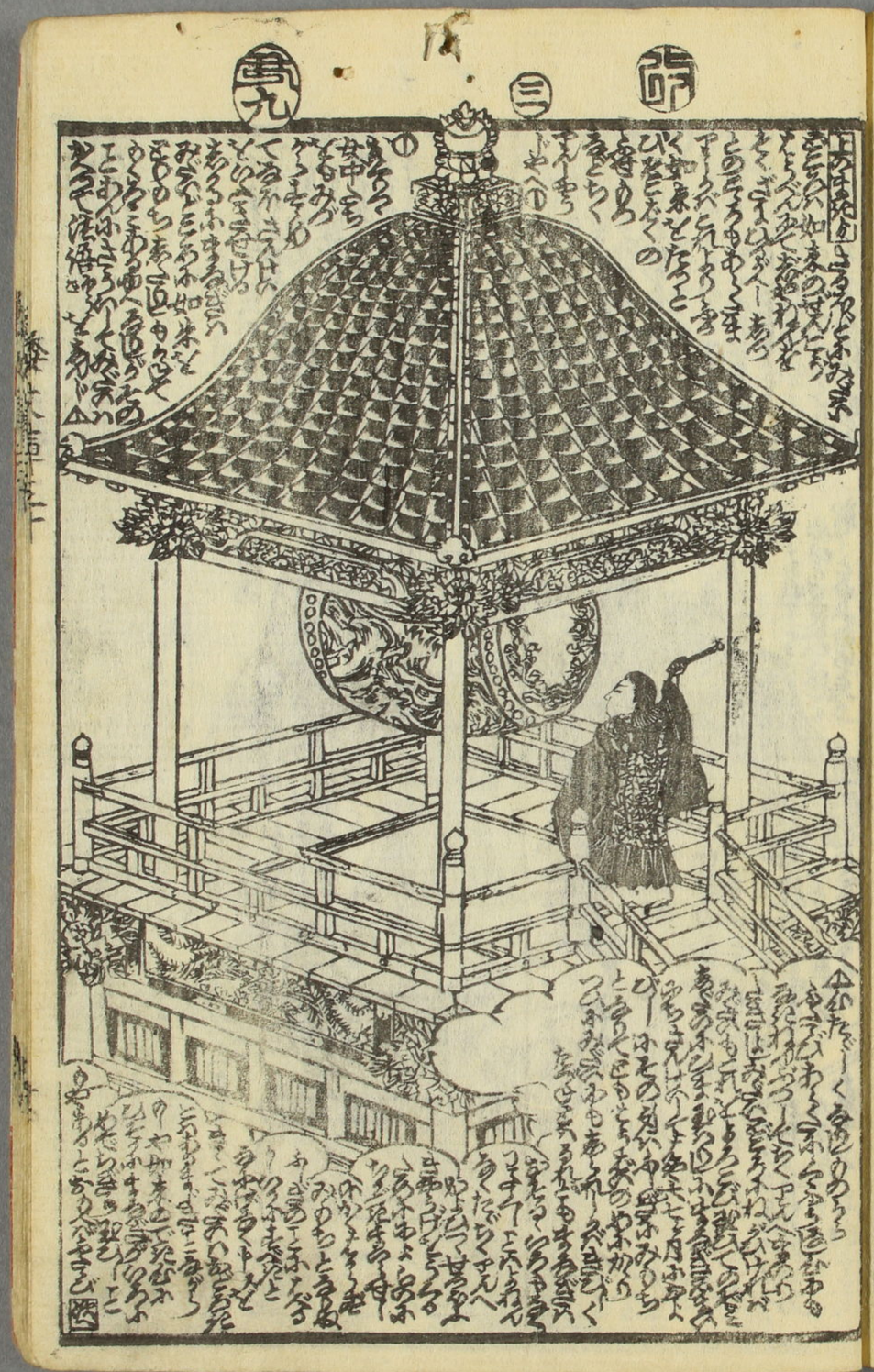
重箱井菱深別小紋 三編 為永春水作 四編 一陽齋豊國画

茶番案文 万亭應賀作 一陽齋豊國画

大寶御江戸圖 奉書 極上彩色摺 六枚半續 明細入り 壱十ヶ

重絵本類 人形町 版元 上州屋重藏

應賀作
國貞画
錦重堂板
下



一葉

傳文庫

[illegible]

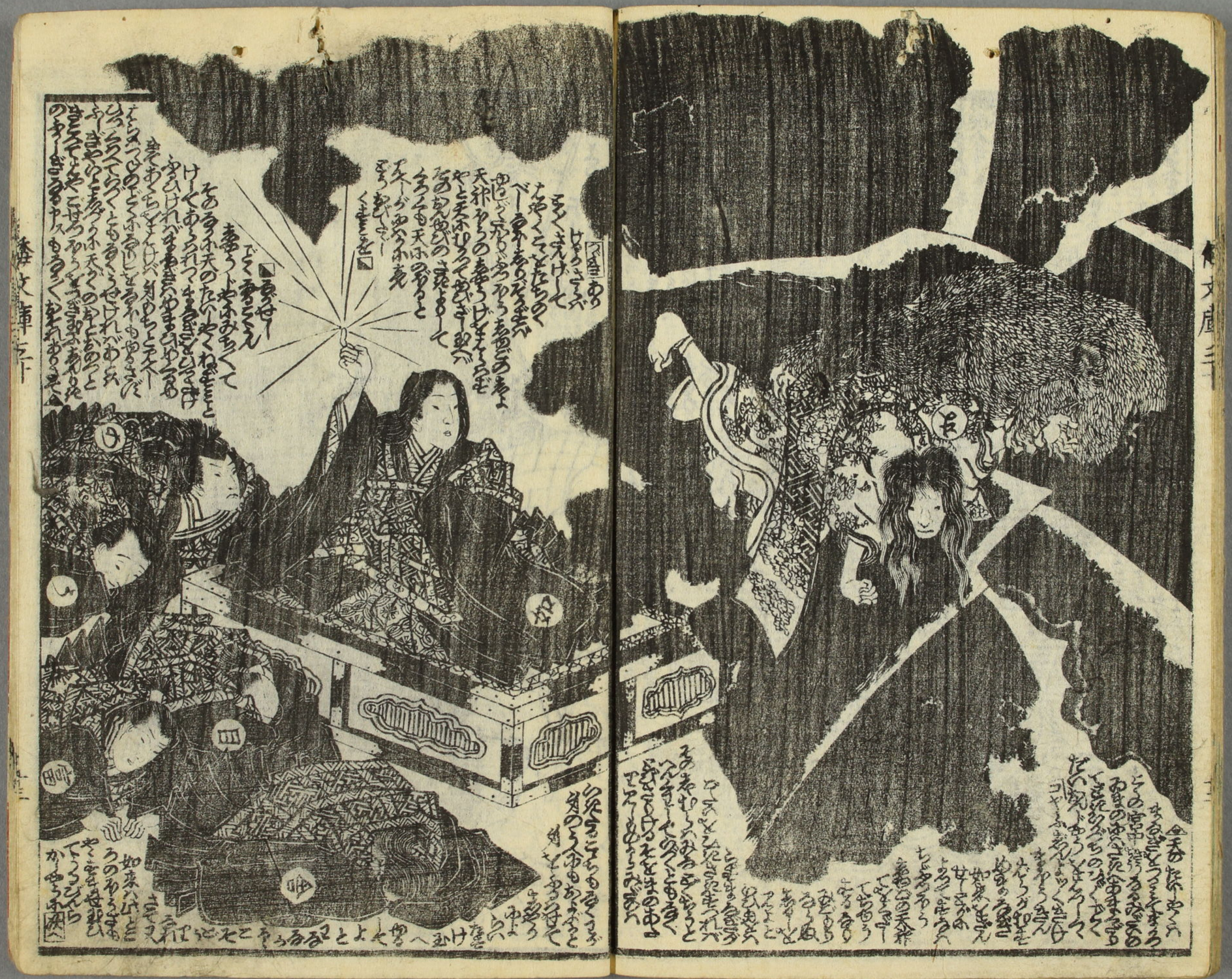
[illegible]

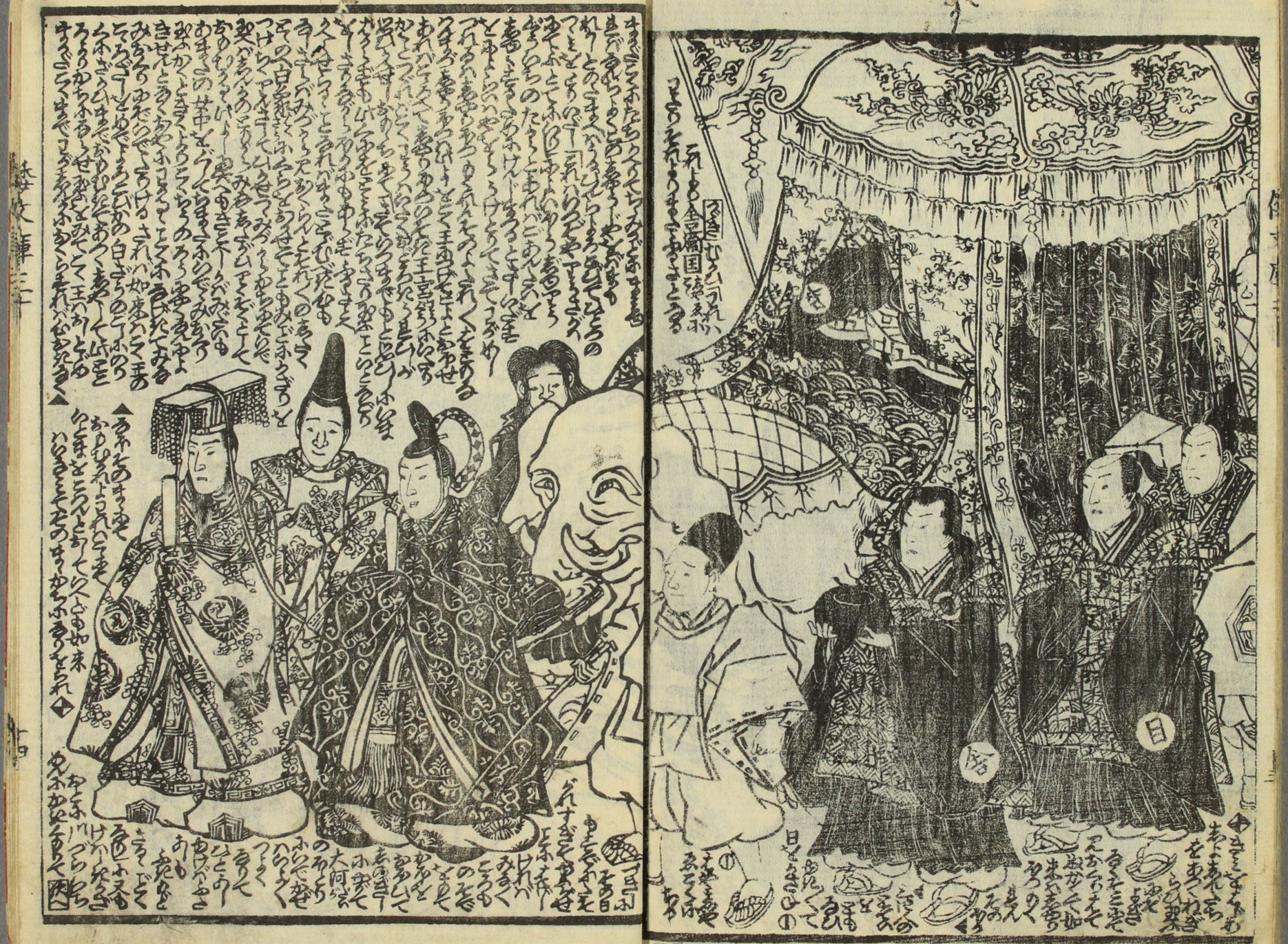
[illegible]

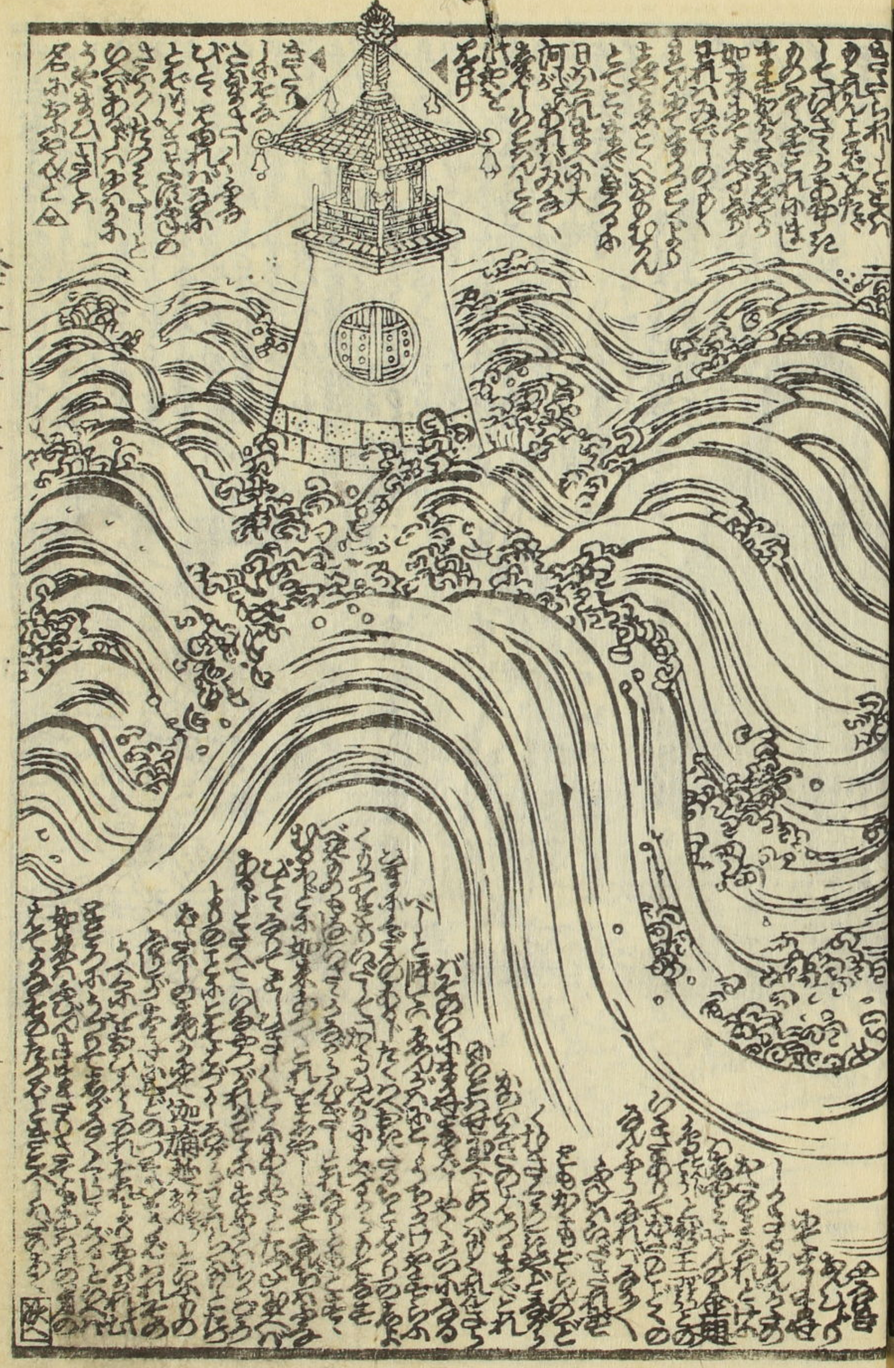
[illegible]

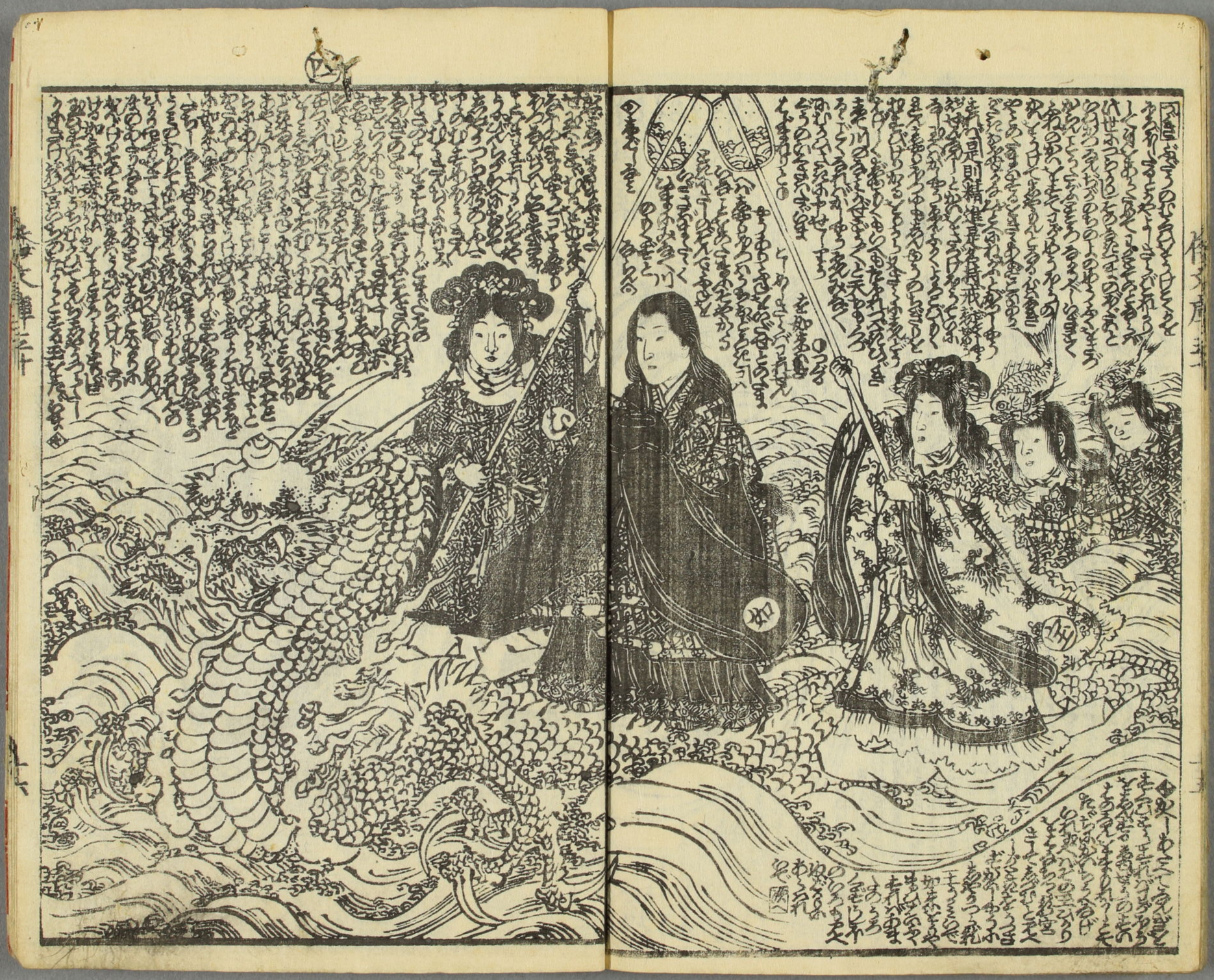
[illegible]

[illegible]





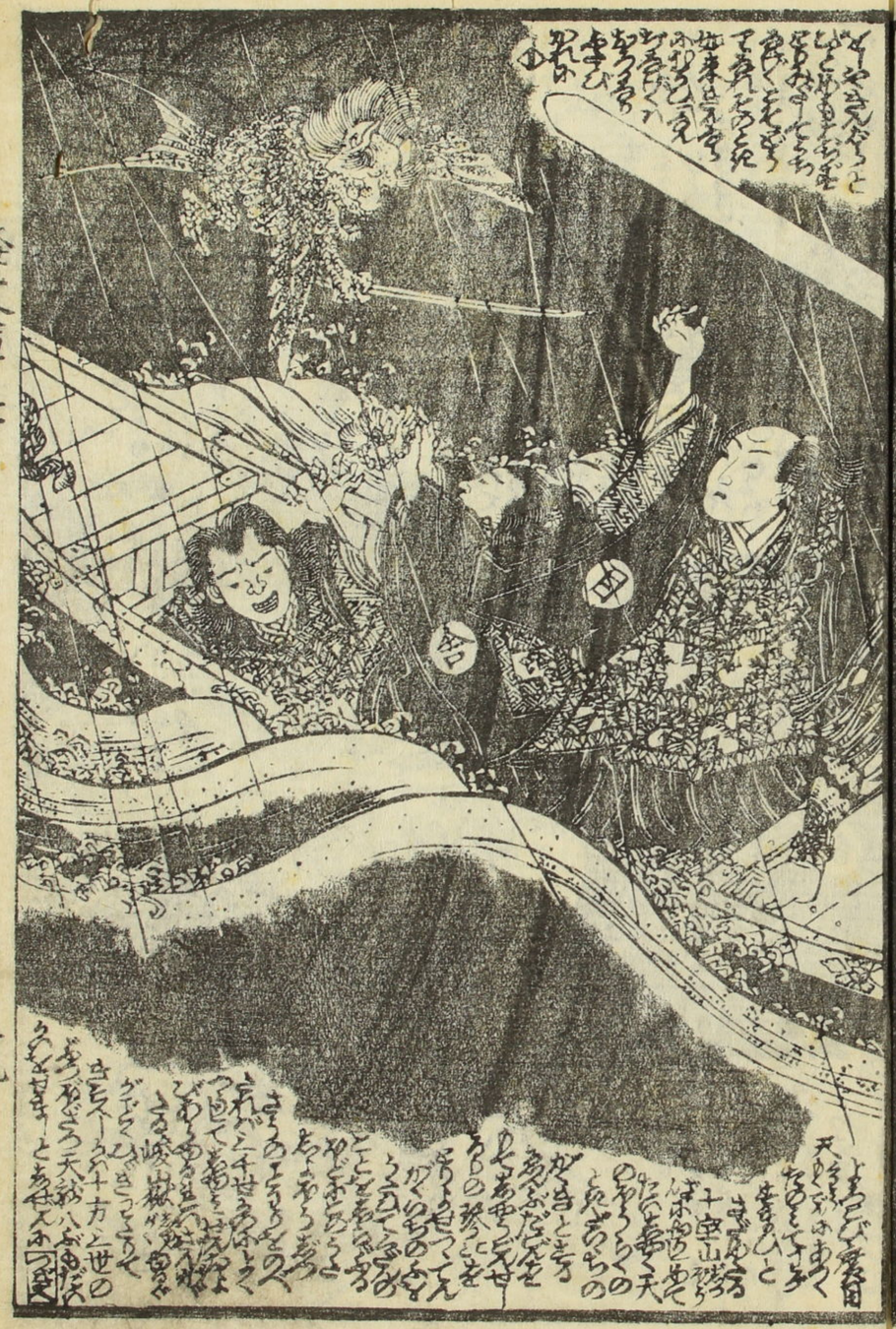


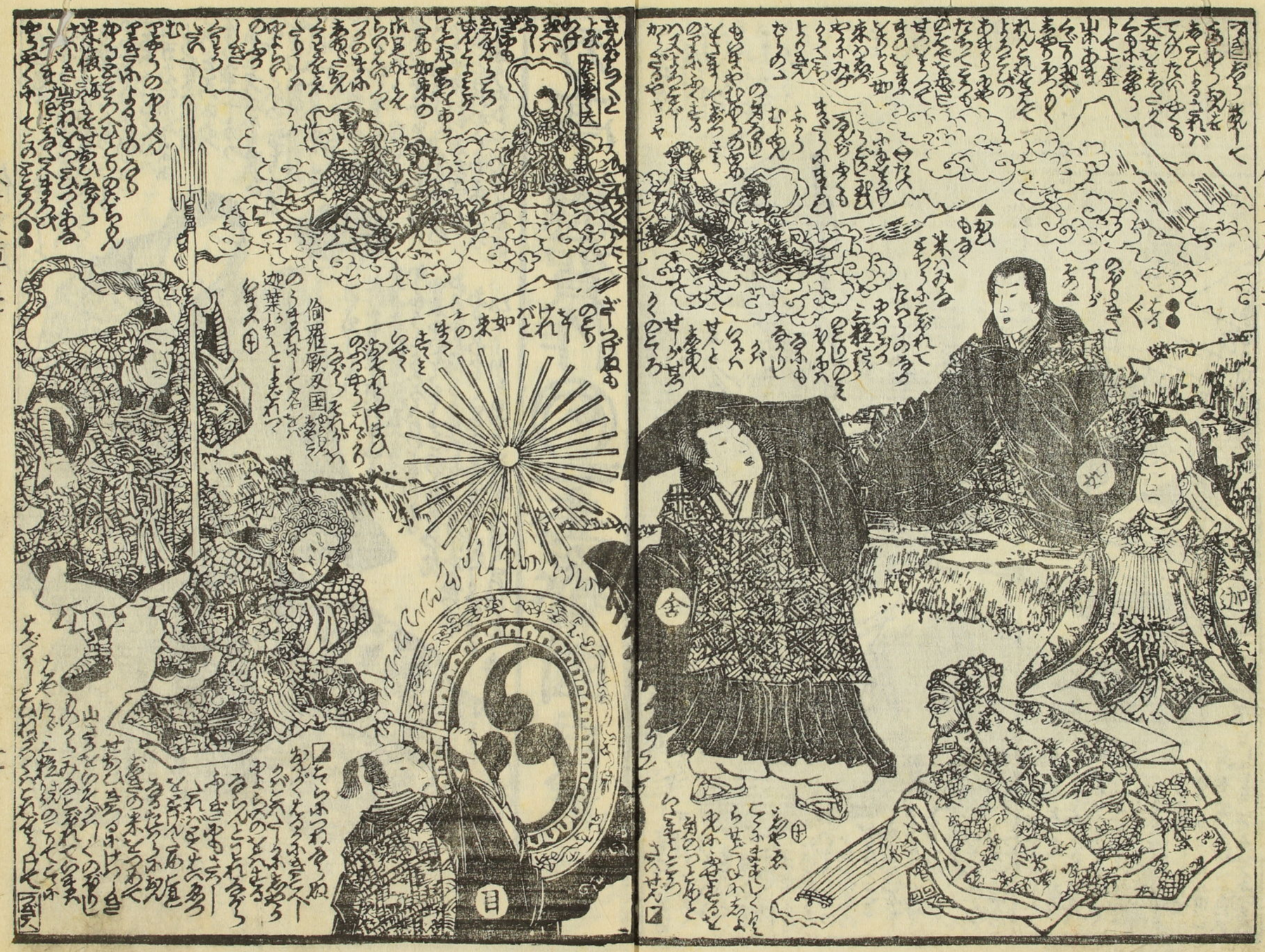


びんがら大王

ばくうてん
天王

ばくうてん
天王





万亭應賀作

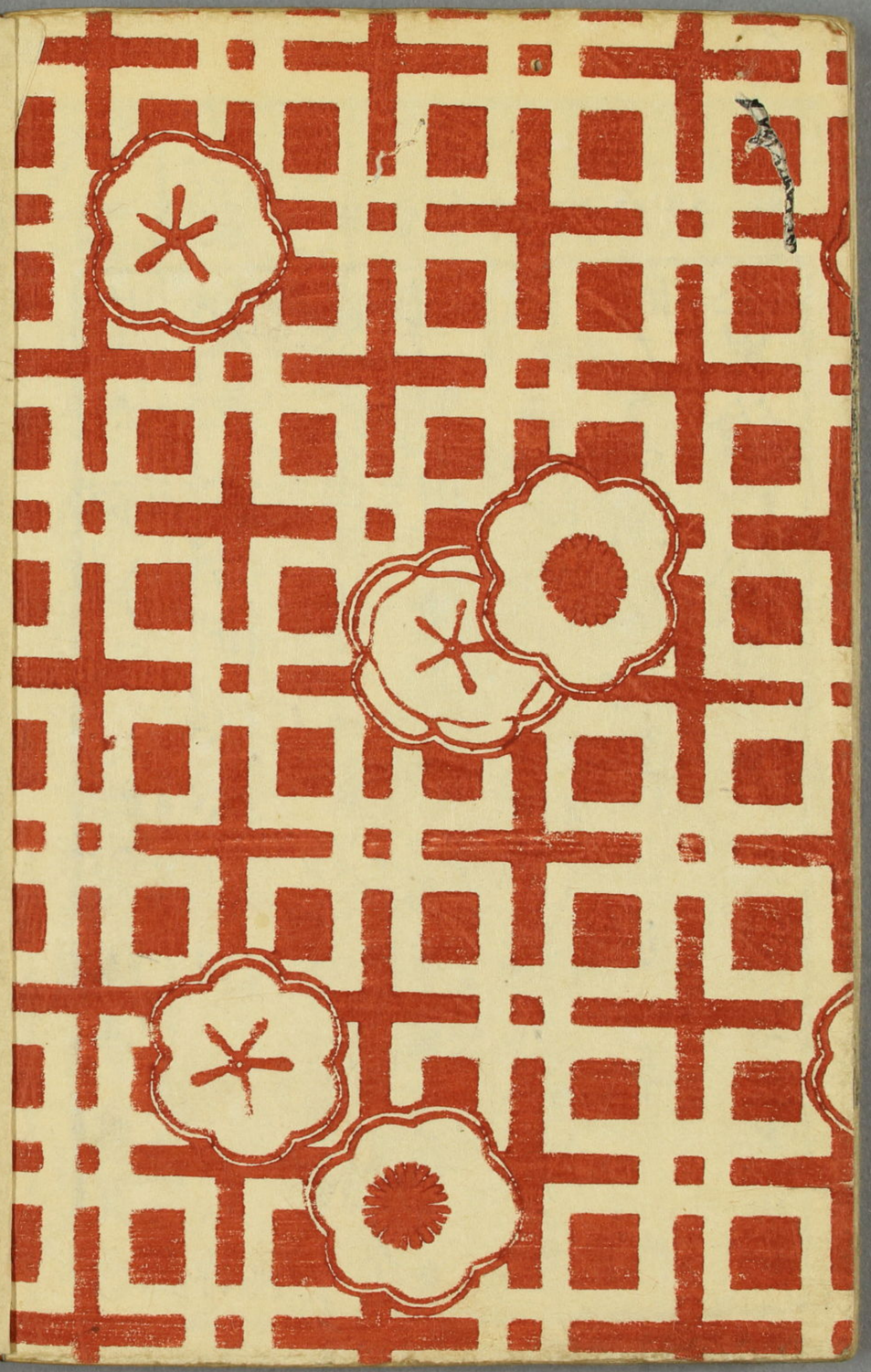
壽齋國貞画

嘉永七甲寅春新板目録

男女振分双六　山双六数番の中なるべし　万亭應賀作
奥奉公出世双六　同
奥奉公出世繪合　極彩色　同
文字太夫直傳　常磐津よせか　初編より五編まで出板仕り
はうき心の作　小本　初編二編三編出来
同　たうま踊獨稽古　万亭作

重　繪艸紙本類　板元　人形町　上州屋重藏

一場齋豊國画



孝婦茶古
辛弼
一方亭庭賀作
歌川國貞畫
三谷堂板